



## 卷頭言

久保, 雅義

---

**(Citation)**

海事資料館研究年報, 29

**(Issue Date)**

2001

**(Resource Type)**

other

**(Version)**

Version of Record

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005714>



# 巻 頭 言

海事資料館館長 久保雅義

本学は平成15年10月に神戸大学と統合することで、そのための多くの調整を行っています。この中で神戸商船大学の図書館も神戸大学の分館となることが決まりました。海事資料館は今まで図書館の附置施設と位置付けられてきましたが、統合後は図書館とは切り離されて、学部の附属施設となります。

このように海事資料館を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。このような中で、海事資料館の歩んできた過去を振り返って見たいと思います。今回の海事資料館の研究年報は29号になります。29年間に亘ってこの年報が続いてきたと言うことは、私にとって素直な驚きです。先人の気長で大きな意志を感じさせられました。

本年2月28日に私にとって初めての海事資料館顧問・専門員合同会議を開催しました。その席で海事資料館の出来た経緯、現在なすべきことについて貴重なお話をお聞きました。

1. 本学元教授で顧問でもあった南波松太郎先生が和船を中心とした資料館にすべき基本構想を立てられたこと。
2. この構想を実行すべく、本学元教授で顧問でもあった田中巽先生を中心として瀬戸内の海事資料を重点的に蒐集を始めて、今日に至っていること。
3. 今ある資料を整理し始めているがなかなか進まないこと。
4. 多くの貴重な資料が眠っている。これらは現顧問の松木先生、武田先生、杉浦先生、北野先生、國領先生がお元気な間に整理しないと、整理できそうにないモノがあること。
5. 幸い多くの顧問の先生方はお元気で、資料整理には情熱を持っていただいていること。

以上の点を踏まえ図書館としては、できるだけ顧問の先生方に来ていただき、整理する環境を整える準備を開始しています。予算がない中での仕事になりますので十分なことはできません。手始めに、プレハブ収蔵庫に入っている資料を整理していただくために、部屋の中心部分に整理するための空間を作り、周辺に整理棚を作りました。松木先生には早速来ていただき整理を始めいただいています。今後とも学内の専門員の先生方にはご苦勞をおかけしますが、宜しく願います。

全国的にも、大学の博物館構想が進んでいると聞いています。今すぐこの海事資料館を博物館に昇格させることは難しいと思います。しかしこの資料館は全国でも珍しい海事に関する資料を集めていることでは文部科学省でもかなり高い評価を受けていると聞いています。何時の日か海事資料館が海事博物館になるのを心に画きながら、今まだ整理されていない資料を整理し、次の世代に引き渡したいと考えています。

海事資料館研究年報の裏表紙を見ると Annual Bulletin of Maritime Museum となっています。この年報を企画された方々の熱い思いを感じさせられました。